



交通事故被害者対策セミナー 自賠責保険

NPO法人相続遺言・交通事故支援センター

はじめに

(交通事故に遭ったら、まずすること)

1. 警察に届ける
事故状況の見分を受ける
2. 医師の診断を受ける(救急搬送要請)
全ての症状記載した診断書を受取り⇒所轄警察署に提出⇒人身事故扱いに(* 事故証明書に人身事故と記載、次ページ参照)
3. 事故の相手方を確認
氏名、住所、電話番号など連絡先を確認
4. 目撃者を確保(後日証言を求めることがあります)
氏名、住所、電話番号など連絡先を確認
5. 記録を取る
日時、場所、写真、事故状況図など

人身事故扱いの事故証明書(資料)

交通事故証明書

事故照会
番号

生田 署

甲・乙

との続柄 本人・人連

発生日時 令和 年 月 日 午前 時 分 ころ

発生場所

住所

氏名

甲

車種

自動車
保険関係

事故時の
状態

乙

車種

自動車
保険関係

事故時の
状態

事故類型

○ 人対車両
正面衝突
側面衝突
出会い頭衝突
接突
追突
その他
転倒
路外逸脱
衝突
その他
踏切
不調査中

上記の事項を確認したことを証明します。
なお、この証明は損害の種別とその程度、事故の原因、過失の有無とその程度を明らかにするものではありません。

令和 年 月 日
自動車安全運転センター

兵庫県事務所長

証明番号

照合記録簿の種別

人身事故

確認したことを証明します。
損害の種別とその程度、事故の原因、過失の有無とその程度を明らかにしません。

令和 年 月 日
自動車安全運転センター

兵庫県事務所長

照合記録簿の種別

人身事故

診断書提出し人身事故
扱いに

交通事故の損害を補償する保険

自賠責保険(強制保険)

- * 自動車運行によって人を死傷させた場合の損害補償
- * 強制加入で被害者保護を目的
- * 被害者が加害者の保険会社に直接請求が可能(16条請求)
- * 支払額に限度あり
- * 物的損害は対象外

自動車保険(任意保険)

- * 自賠責保険の支払い限度額を超えた人身損害
- * 他人の自動車や建物などの物的損害
- * 運転者自身や同乗者の障害
- * 自分の自動車の損害等を補償

自賠責保険の補償内容

障害による損害 (限度額120万円まで)

- * 治療費： 実費
- * 通院交通費： 実費
- * 休業損害：休業1日6,100円
- * 入通院慰謝料：
入通院1日4,300円
(入通院日数×2<治療期間)
- * その他：入院中の看護料、義肢等の費用、診断書等文書料

後遺障害による損害

- * 治療継続しても回復困難と見込まれる症状が残ったため日常生活に支障ありと認定された場合、障害の程度に応じて、第14級75万円～第1級3,000万円が支払われます。

自賠責保険の補償内容

等級	保険金額
第1級	3,000万円
第2級	2,590万円
第3級	2,219万円
第4級	1,889万円
第5級	1,574万円
第6級	1,296万円
第7級	1,051万円
第8級	819万円
第9級	616万円
第10級	461万円
第11級	331万円
第12級	224万円
第13級	139万円
第14級	75万円

死亡による損害

- * 3,000万円を限度に、葬儀代、逸失利益、被害者本人の慰謝料、遺族の慰謝料が支払われる。
- * 死亡に至るまでの障害については、別途障害による損害(120万円を限度)が支払われる。

自賠責保険の請求方法

被害者請求(16条請求)

- * 被害者が、加害者の加入する自賠責保険会社へ直接損害賠償額を請求
- * 当所、任意保険一括請求していても、途中から被害者請求に切り替え可能

任意一括請求

- * 加害者の加入する任意保険会社が窓口となり、被害者の治療費、休業損害(請求した場合)など自賠責保険の支払分もまとめて支払いうという仕組み
- * ほとんどの被害者の方がこの任意一括請求をやっているのが現状

任意一括請求

メリット

- * 必要な書類収集や自賠責保険への申請手続きを任意保険会社がやるため、被害者にとっては楽な面もあるが、
- * メリットは楽なだけ

デメリット

- * 治療期間、医療機関からの書類等すべて任意保険会社のコントロール下にあるため、被害者側の論理で事が運ばない。
- * 治療の早期打ち切りなど被害者の思惑と一致しないことがある
- * 後遺障害診断受診のタイミング等も保険会社任せとなり、後遺障害診断受診すら指示しないこともある
- * 示談金提示も保険会社基準の低額なものとなる

被害者請求(16条請求)

メリット

- * 治療期間のコントロール等すべて被害者自身の工夫判断でできる
- * 仮に任意保険会社から治療費支払を打ち切られても自身の健康保険で通院継続できる
- * 後遺障害診断受診も被害者とDoctorとの間で決められる
- * 被害者にとって、ある程度納得した結果が得られやすい。

デメリット

- * 手間がかかり面倒なだけ
- * 面倒なことは専門家にご依頼ください

被害者請求(16条請求)事例1

経過

背景

- * 被害者:46歳女性(会社員)
- * 事故日:某年3月中旬
- * 事故状況:自転車で一方通行道路を走行中(逆方向)、曲がり角で加害車両発見し自転車を止めて待機中、正面衝突され受傷
- * 近隣総合病院へ救急搬送、腰部臀部打撲(いわゆるむち打ち)左膝打撲、仙骨部骨折等にて17日間の入院

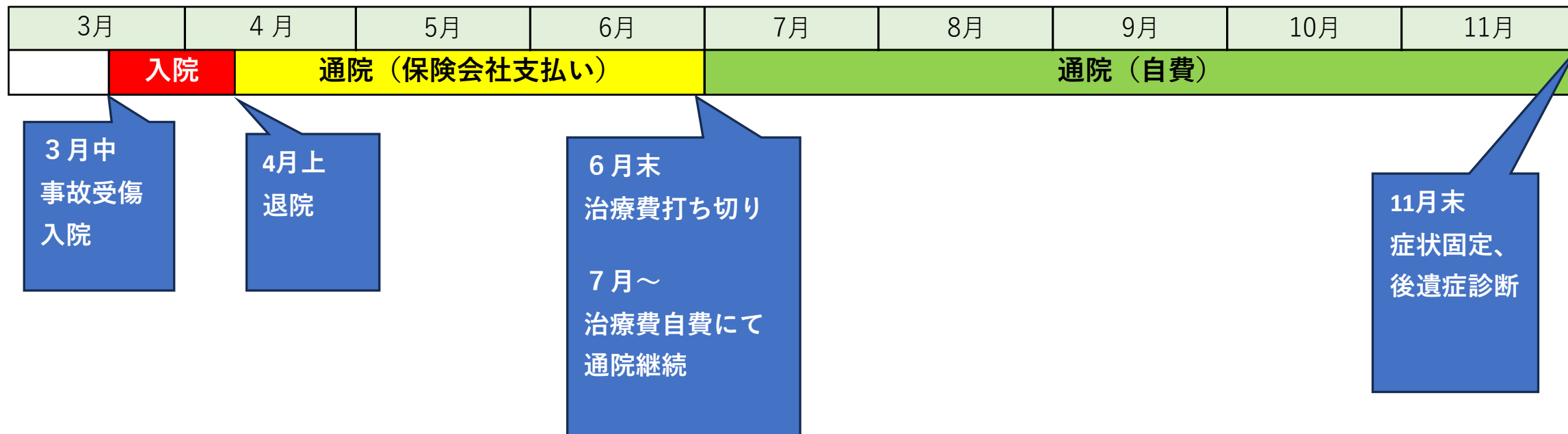
- * 退院後、総合病院、近隣整骨院にリハビリ通院継続するも6月末で相手方保険会社から治療費支払打ち切り通告(任意一括)
- * 当方で被害者請求に切り替え、健康保険で通院継続(総合病院、近隣開業医「整形外科」)
- * 11月末総合病院にて後遺障害診断受診(通院期間7カ月、通院日数107日)

結果

- * 後遺障害第14級9号認定
- * 治療状況、症状経過等勘案すれば後遺障害に該当する

被害者請求(16条請求)事例1

入通院経過



被害者請求(16条請求)事例2

経過

背景

- * 被害者:48歳女性(専業主婦)
- * 事故日:某年8月上旬
- * 事故状況:自転車で歩道走行中、歩道脇通路(駐車場)から出てきた車両に接触、前歯2本欠損、顔面打撲損傷、(後に当該事故での神経症発症)の受傷
- * 近隣総合病院へ救急搬送、顔面打撲損傷治療のため形成外科受診、その後当該病院に歯科がなく、近隣歯科医院にて受診。
- * 通院のみで入院はなし

- * 事故後、歯科医院に通院継続欠損歯部分に差し歯を挿入治療するも合わず調整も含め通院継続(その間神経内科も通院)。1年後の7月末で任意保険会社から治療費打ち切り、示談金の提示(低額)あり、当方に相談
- * 被害者請求に切り替え通院継続。同年11月末に後遺障害診断受診。

結果

- * 後遺障害第14級2号認定
本件事故での2本の欠損歯と既存の欠損歯1本 計3本で「3本以上の歯科補綴」を認定
- * 他神経症、顔面の傷は認定されず

被害者請求(16条請求)事例2

入通院経過

8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
通院（歯科中心）心療内科も受診							

8月上
事故受傷
形成外科、歯科
通院開始

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月
通院				通院(自費)			

7月末
治療費打ち切り

8月～
治療費自費にて
通院継続

11月末
症状固定、
後遺症診断

被害者請求(16条請求)事例3

経過

背景

- * 被害者:60歳男性(派遣社員)
- * 事故日:某年8月中旬
- * 事故状況:自動車運転中、交差点の右折待ちで停車していたところ後方車に追突され受傷
- * 事故当日は病院に行かず帰宅後、体調異変を感じ、翌日総合病院整形外科受診、腰椎、頸椎打撲捻挫(いわゆるむち打ち)の診断
- * 総合病院リハビリは夜間診療がなかったため、翌9月より近隣の開業医(整形外科)に診断、通院する

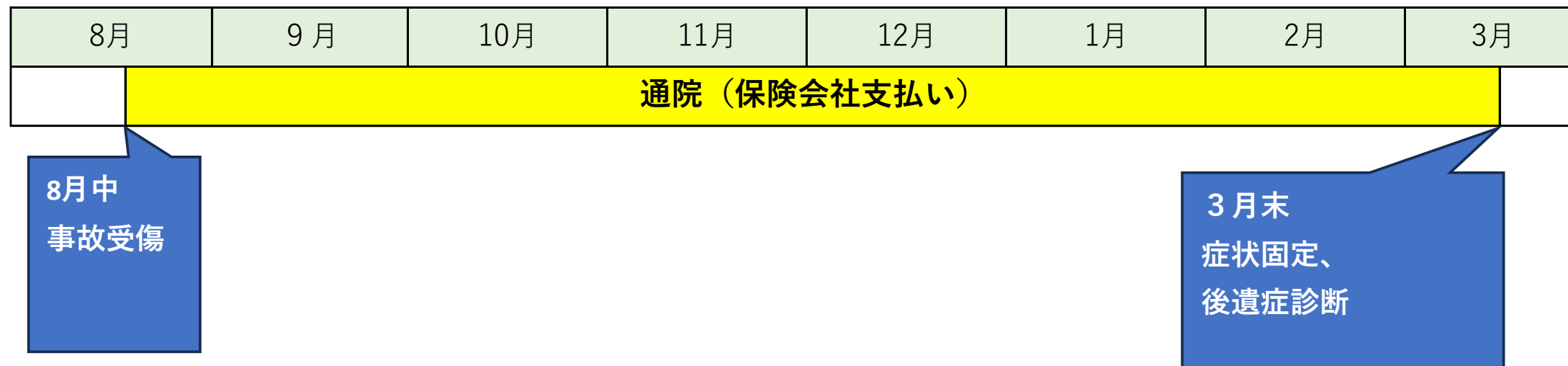
- * 体調がすぐれず、首腰に痛み、だるさがひどかったこともあり、9月から翌年2月まで月平均15日以上のリハビリ通院を継続(任意一括)
- * 今後のこと(症状固定や賠償金などの説明が保険会社から全くなく)が不安に思い当方にご相談
- * その時点で通院日数が90日近くあったため、被害者請求に切替、翌月(3月)に症状固定＝後遺障害診断受診をお勧め、実行

結果

- * 後遺障害第14級9号認定
- * 他覚的に障害が証明されるものとは捉えられない
- * 治療状況、症状経過等勘案すれば後遺障害に該当する

被害者請求(16条請求)事例3

通院経過



被害者請求(16条請求)事例4

経過

背景

- * 被害者:71歳男性(無職)
- * 事故日:某年9月上旬
- * 事故状況:台風で信号機が消えていた交差点にバイクで進入、右側から来た自動車に接触右膝骨骨折他で救急搬送され総合病院にて手術、入院(73日)
- * 過失割合で相手方任意保険会社が治療費支払を拒否したこともあり、自身の障害保険(人身傷害特約)で治療費支払う

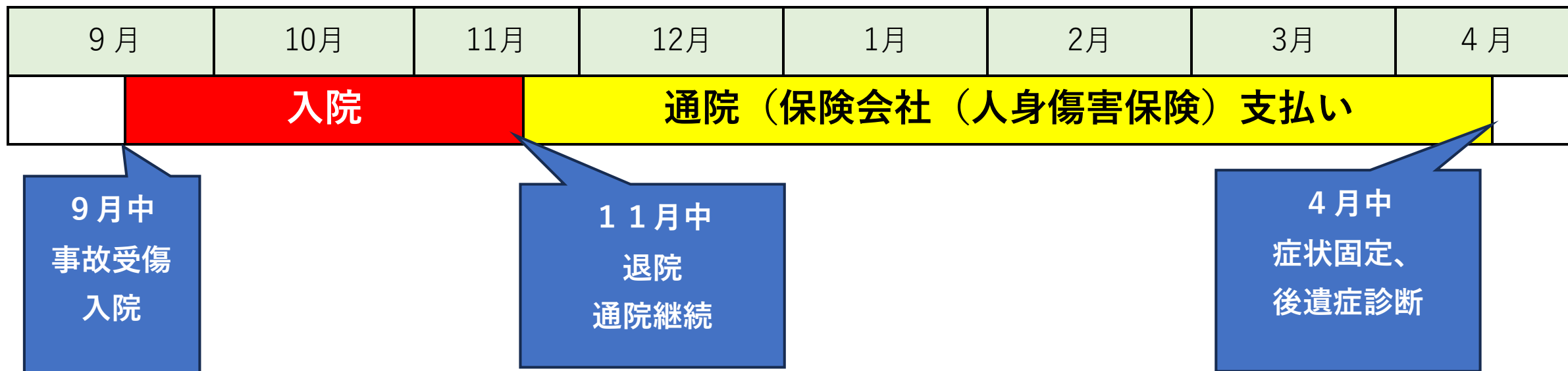
- * その後、治療費支払を渋る保険会社が信頼できないとのことで当方にご相談
- * 治療費支払を継続させたまま。リハビリ通院継続
- * 最終、被害者請求に切替え、事故翌年4月症状固定＝後遺障害診断受診

結果

- * 後遺障害第12級13号認定
- * 局部に頑固な神経症状
- * 健側の可動域角度の3/4以下制限されていない

被害者請求(16条請求)事例4

入通院経過



被害者請求(16条請求)事例5

背景

- * 被害者:62歳男性(嘱託社員)
- * 事故日:某年12月下旬
- * 事故状況:信号のない自動車道路(片側1車線)横断中、手前車線を加速してきた車両に撥ねられる
- * 救急搬送され総合病院にて右足脱臼骨折で手術、入院55日
- * その後、事故から2年後(翌翌年)の12月中旬まで通院継続

経過

- * 事故翌年2月退院後に当方に相談、手術を伴う大きな事故で重傷であることから、じっくり通院(リハビリ)継続を提案
- * ・リハビリ通院中翌年6月骨折線癒合が認められなかったことで再手術、20日入院
- * その後翌翌年6月に抜釘手術、2日入院
- * リハビリ継続し同年12月中旬症状固定＝後遺障害診断受診

結果

- * 後遺障害第10級11号認定
- * 健側の可動域角度の1/2に制限
- * 3大関節中の1関節に著しい障害をのこすもの

被害者請求(16条請求)事例2

入通院経過

12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
	入院		通院（保険会社支払い）				入院	通院（保険会社支払い）	

12月下
事故受傷
入院55日

2月中
退院
通院継続

6月中
再手術
入院20日

10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月
通院（保険会社支払い）								入院	

6月中
抜釘手術
入院2日

8月	9月	10月	11月	12月
通院（保険会社支払い）				

12月下
症状固定、
後遺症診断



ホームページ



交通事故ページ

ありがとうございました。

NPO法人相続遺言・交通事故支援センター

理事長・行政書士：柴田 文夫

〒651-0057兵庫県神戸市中央区中尾町10-36

TEL:080-3100-0809